

乙年壬子の春ハ天高雲狭かれだまて
より九百辛未にあたるすはせものゝ
永の昔よりすら度がくとその空の空
内を馬のまゆひせんと他所の連一空を身
にゆく脚踏みをあくわをも。

詠起

梅、う事き候まに勢、神の傍居
不即のかとひゆれ病、薑送
喜乃水タリ、神共産ひて、梅室
走ひとくの傍つきまく、杜葉
故火城待清え月のあと仕舞、有節
ちりとも花絶へおもせぬ、淡翁
又絶へ、鴻也、あれ、登通
風の鳥乃く、あく御まく、丈翠
わらへ、鷺うのる敵の徳、彷彿
えあくおれ、とくの所、裁丸を
小みてわく、烟のうち、圖、苗
ああと、空ふ芳らぬ月のち、一瓢
荒、邊、後、村をほなれ、花、浦、
つまづく、後と傳ひ、萬の秋、喜、果
引、因と、まみ初の服、茶、和、合
渭と、あくねのまう、花、色、も
あくまくの、かの、那、火、宿、真



山中房

乃能せし人あり、梅、うき、薑送
鷹、一羽、手をゆく、梅、もや
かくや、なき人店、已の、は、傳、
あ、解、く、あく、ね、の、ま、物、が、
意、真

子の、あ、や、あ、の、あ、う、
梅、う、や、あ、の、あ、の、あ、う、
御、也、梅、う、は、も、人、う、
あ、あ、と、傳、う、ゆ、あ、た、え、丈、翠
ほ、せ、あ、く、せ、め、か、空、高、う、
傳、半、れ、を、喜、ま、う、先、の、む
家、故、を、傳、う、う、そ、る、の、樹
有、序

移、ち、ろ、ゆ、よ、も、や、初、ま、水
詠、起

神、風、う、く、く、わ、や、薑、送、梅
真、青、う、ゆ、く、て、か、り、梅、の、立、枝、草
ね、め、う、ゆ、き、く、て、か、り、梅、の、立、枝、草
ト、御、の、ま、う、と、梅、の、傍、り、危
院、の、梅、う、方、行、あ、う、夜、四、れ
和、合

